様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　22 年　5 月　6 日現在

研究種目：基盤研究（Ａ）
研究期間：2007～2010
課題番号：19202028
研究課題名（和文）　都市と文明の起源に関する人類史的研究
－アンデスにおける形成期研究の再構築－
研究課題名（英文）　Anthropological Studies on the Origins of City and Civilization: Reconsideration of the Formative Studies in the Andes

研究代表者
加藤　泰建（KATO YASUTAKE）
埼玉大学・副学長
研究者番号：00012518

研究代表者の専門分野：文化人類学、アンデス先史学
科研費の分科・細目：文化人類学　文化人類学・民俗学
キーワード：文化人類学、先史学、考古学、アンデス、ペルー、クントゥル・ワシ、形成期

１．研究計画の概要

（１）南米アンデス地域における都市と文明の起源およびその展開に関して、これまで蓄積されてきた考古学データを人類史的観点から整理して「アンデス形成期研究の現状」を把握する。

（２）個々の調査研究事例の分析から都市と文明の起源についての総合を試み「アンデスにおける形成期研究の再構築」を図る。とりわけ、アンデス地域の特異性に着目した理論的考察を行う。

（３）アンデスを対象とした研究成果を踏まえて広く「都市と文明の起源に関する人類史的研究」に資する具体的な課題や方法、理論的な枠組みなどを抽出する。

２．研究の進捗状況

（１）「アンデス形成期研究の現状」の把握については、平成 20 年度にペルーのカトリカ大学で開催された国際研究集会『アンデス形成期－近年の成果と焦点』に共催者として企画段階から加わり、形成期の遺跡に関する最新の研究成果を集中的に把握する機会を得た。さらに、これまでの 3 年間に、研究協力者を現地ペルーに派遣して必要な実情の把握を行った。

（２）形成期研究の鍵を握るのは前 800 年（形成期後期）に大規模な神殿を築いた三つの遺跡の調査研究であることが明らかになった。東京大学・埼玉大学チームが 1988-2002 年に調査を実施、完了したクントゥル・ワシ遺跡、現在も調査を実施しているスタンフォード大学チームによるチャビン・デ・ワンタル遺跡、日本の国立民族学博物館チームが 2005 年に調査を開始したパコパンパ遺跡である。これらの研究データから、神殿を核としたアンデス独特の文明展開を読み取ることが期待できる。

（３）アンデス最初の社会発展が前 3000 年にまで遡ることが近年ペルーのサン・マルコス大学によるカラル遺跡の調査から明らかになった。つまり形成期の始まる時点と文明段階に到達した形成期後期に関する質の高いデータが今、揃いつつある。

（４）「アンデスにおける形成期研究の再構築」については、平成 20 年度に、国際研究ワークショップ『センターと社会プロセス：アンデス文明古期と形成期研究における概念とコンテクスト』を開催し、研究の核となるデータを持つクントゥル・ワシ、チャビン・デ・ワンタル、パコパンパ、カラル 4 遺跡の発掘調査者などが集まって討議を行う機会を持った。このワークショップの議論を踏まえ、平成 21 年度にはさらに理論的考察を深めて研究成果の取りまとめを行った。

（５）「都市と文明の起源に関する人類史的研究」としてアンデス形成期の研究をより広くとらえる観点から、平成 20 年度に、他分野の研究者も交えた公開シンポジウムを開催して議論を行った。平成 21 年度には、さらなる意見交換をすすめ、その成果をまとめた書物『古代アンデス－神殿から始まる文明』を編集して出版した。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
研究期間の 2 年目（平成 20 年度）に国際研究集会、国際研究ワークショップ、公開シンポジウムを開催して、研究課題を明確にするとともにデータ収集を効果的に行うことができた。3 年目の平成 21 年度には、その成果の取りまとめ作業に着手し、すでに、より広い読者を対象にした書物『古代アンデス－神殿から始まる文明』を刊行した。国際研究集会、国際研究ワークショップを発展させた成果については、現在、参加者各自が更なる検討を進めており平成 22 年度に編集作業に着手、論集として公刊する予定になっている。

４．今後の研究の推進方策
（１） 平成 20 年に実施した国際研究集会の成果をもとに、「アンデス形成期研究の現状」が明らかとなるような論集を、カトリカ大学と連携して編集し、出版に努める。
（２） 平成 20 年に実施した国際研究ワークショップの議論をさらに発展させ、「アンデスにおける形成期研究の再構築」に資する論集を、国立民族学博物館と連携して編集し、公刊する。

５． 代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計 14 件）
① Tomohito Nagaoka, Yuji Seki, Juan Pablo, Walter Tosso, Kinya Inokuchi, 他 3 名, Human Skeletal Remains from the Pacopampa Site in the Northern Highlands of Peru, Anthropological Science, 117(3) , 137-146, 2009 年, 査読有

〔学会発表〕（計 22 件）
①Yuji Seki, Diversidad del Poder en la Sociedad del Período Formativo: Desde el Punto de Vista de la Sierra Norte del Perú. 50th Annual Meeting of the Institute of Andean Studies, 2010. 1. 7, University of California, Berkeley

②Yasutake Kato, Las Transformaciones del Centro Formativo Kuntur Wasi: evidencias y una perspectiva. Taller Conmemorativo Internacional “Centro y Procesos Sociales, Concepto vs Contexto en los Estudios sobre la Civilización Andina para los Períodos Arcaico y Formativo”, 2008. 11.29, Museo Nacional de Etnología, Osaka

③Kinya Inokuchi, La Arquitectura de Kuntur Wasi: Secuencia y Cronología de un Centro Ceremonial del Período Formativo, VI Simposio Internacional de Arqueología "El Período Formativo: Enfoques y Evidencias Recientes”, 2008. 9. 5, Universidad Católica, Lima

④Yuji Seki, La Perspectiva del Proyecto Arqueológico Pacopampa como Experiencia de Cooperación Académica Internacional. Acto Académico Conmemorativo de 50 Aniversario de la Misión Arqueológica Japonesa a los Andes, 2008. 9. 2, Universidad Mayor de San Marcos, Lima

〔図書〕（計 2 件）
①大貫良夫、加藤泰建、関雄二、朝日新聞出版、古代アンデス: 神殿から始まる文明、2010 年、271 ページ